

昨年の日本グランプリは2位と苦しい出が残ったV.ボッタス選手。今年はスタートでホールショットを決めて優勝することができ、鈴鹿が好きになったと言う。



バルテリ・ボッタス選手が鈴鹿初優勝、今シーズン3勝目をマーク

大型の台風19号が日本に上陸し、関東地方を始め甲信地方や東北地方に大きな傷跡を残した10月第2週の週末は、2019 FIA F1世界選手権シリーズ第17戦 日本グランプリレースが開催されるタイミングでもあり、鈴鹿サーキットも例外ではなくこの台風の影響を受けた。

台風が最接近する10月12日の前日、タイムスケジュール通りにF1のフリー走行(FP1

／FP2)は行われたが、併催のFIA-F4 Suzuka Special Stageは全セッションが中止、同日に予定されていたステージイベントの時間変更、GPスクエア内の各種ブースの営業時間の短縮へと波及。続いて12日に予定されていたF1のフリー走行(FP3)が中止、公式予選は13日午前順延となった。また鈴鹿サーキットで行われる各種イベントの中止が決定し、12日はサーキットが終日へと休園に追い込まれた。

さまざまな形で台風12号が日本グランプリ開催に影響を与えたが、明るいニュースもあった。2018年の全日本スーパーフォーミュラ選手権、SUPER GTでダブルタイトルを獲得した山本尚貴選手が、レッドブル・トロロソッ・ホンダからFP1に出走ることが決定。日本人ドライバーが日本グランプリでF1に乗るのは、2014年の小林可梦偉選手以来となる。なお、F1に乗るために必要なスーパーライセンスにつ



1.2.2019 FIA F1世界選手権第17戦日本グランプリレースの覇者は、メルセデスAMGペトロナス・モータースポーツのV.ボッタス選手。〔鈴鹿は〕オーバーテイクが難しいから、スタートでトップが獲れたことが嬉しい。またマシンの感触がとても良くて、アップグレードはしっかりと機能した」とコメントした。



3.2位はスクーデリア・フェラーリのS.ベッテル選手。4.メルセデスAMGペトロナス・モータースポーツのL.ハミルトン選手は3位。5.4位にアストンマーティン・レッドブル・レーシングのA.アルボン選手。6.マクラーレンF1チームのC.サインズJr.選手が5位。7.6位はスクーデリア・フェラーリのC.ルクレール選手。8.レッドブル・トロロツ・ホンダのP.ガスリー選手は7位。9.8位にスポーツベサ・レーシング・ポイントF1チームのS.ペレス選手。10.スポーツベサ・レーシング・ポイントF1チームのL.ストロール選手が9位。11.10位はアストンマーティン・レッドブル・レーシングのA.アルボン選手。12.表彰台上に誇らしげに立つS.ベッテル選手。13.L.ハミルトン選手はファンに笑顔で応えた。



いて、山本選手はポイント基準に達していなかったが、フォーミュラドライバーとしての実績、今季の成績も加算した上で発給がなされた。

山本選手はF1マシンのシミュレーター等で事前準備を行ってきたようだが、FP1ではP.ガスリー選手のマシンで大きなミスをする事もなく1分32秒018というタイムを叩き出した。順位だけ見れば20台中17番手ではあるが、F1

初走行ということとを考慮するとチームメイトのD.クビアト選手と0.098秒差という結果は上出来な内容だったと言える。

「F1マシンのパワーに驚かされました」と興奮冷めやらぬ表情で語った山本選手。走行後に開かれたメディアカンファレンスでは、国内外問わずメディアに囲まれ、インタビュー攻めに遭うほど世界中の注目を集めた。

11日のフリー走行は、FP1 / FP2ともにV.ボッタス選手がトップタイムをマークし、それにL.ハミルトン選手が追従、メルセデスAMGペトロナス・モータースポーツが1-2体制を築いて他チームを圧倒した。パワーユニットのホンダの地元開催ということでファンも多いアストンマーティン・レッドブル・レーシングのM.フェルスタッペン選手は、FP2で3番手のタイムで場内を沸かせた。

台風一過、13日は晴天に恵まれて絶好のレース日和となった。公式発表によると13日だけで約89,000人の観客を動員し、開催期間では延べ約122,000人が来場した。前年と比べると減少こそしているが、中止になった12日の動員見込みを考慮すれば増加傾向となっている。

午前中に行われたQ1はメルセデス勢を抑えてスクーデリア・フェラーリのC.ルクレール選手がトップ。しかしQ2はフェラーリ勢を抑え



14.15.2018年にスーパーフォーミュラとスーパーGTで2冠の偉業を達成した山本尚貴選手が、FP1でレッドブル・トロロツ・ホンダのマシンをドライブ。走行終了後は世界のメディアからインタビュー攻め!



16.表彰台には2位のS.ベッテル選手、1位のV.ボッタス選手、3位のL.ハミルトン選手が登場。歓声が鳴り響く中、日本のF1ファンへ手を振った。17.メルセデスAMGペトロナス・モータースポーツは鈴鹿でコンストラクターズ・ワールド・チャンピオンシップを決めた。6連覇の偉業を達成。18.優勝トロフィーとシャンパンを持って喜びを露わにしたV.ボッタス選手。19.3位のL.ハミルトン選手にトロフィーの贈呈を行ったのはJAF 藤井一裕会長。

てV.ボッタス選手が盛り返してトップを奪還。続くQ3は1分27秒台の熾烈な争いとなり、ファステストをマークしたスクーデリア・フェラーリのS.ベッテル選手がポールを獲得した。

フロントロウは2台のスクーデリア・フェラーリが独占、直後にメルセデスAMGペトロナス・モータースポーツの2台、そしてアストンマーティン・レッドブル・レーシングの2台が続いてグリッドに並んだ。決勝スタートは14時10分、3番手スタートのV.ボッタス選手がホールショットを奪って逃げる展開に。

その後、2コーナーではC.ルクレール選手とM.フェルスタッペン選手が接触し、両者順位が後退。接触によるマシンのダメージが大き

いM.フェルスタッペン選手は、14周目のピットインでリタイア。C.ルクレール選手は破損したフロントウイングのまま走行を続けたが、ピットインで最後尾まで順位を落とした。

レースの主導権は常にV.ボッタス選手が握っていた。ポイントリーダーのL.ハミルトン選手も食らいついて行ったが、V.ボッタス選手がトップでチェッカーを受けて優勝。トップ集団のポジションをキープしたS.ベッテル選手が2位入賞。L.ハミルトン選手は猛追するも届かず3位となった。

日本グランプリ決勝は53週のレースだが、実際のところ52周でチェッカーが振られていたことが発覚。レース終了後にFIAレースデ

ィレクターのマイケル・マシ氏が会見を開いて、電光掲示板による原因不明のシステムエラーがあったと説明し、「現在調査中です。こういうことが起きて非常に残念です」とコメントした。だがレギュレーションに則り、52周が終了した時点での順位が暫定リザルトとなった。

一転、スポーツサ・レーシング・ポイントF1チームから、ルノーF1チームのレギュレーション違反についての抗議がFIAに提出されて正式リザルトはお預けとなる。後日、ドライバーエイドに関する競技規則に反しているとの裁定が下り、暫定6位のD.リカルド選手、暫定10位のN.ヒュルケンベルグ選手が失格となり、日本グランプリはようやく幕を閉じた。



20.日本グランプリ開催に合わせて、鈴鹿サーキット内には至るところでF1の装いに変化していた。21.海外からのファンも思い思いの仮装をしてF1を思い切りエンジョイ。22.決勝直前にはサーキットの上空でHondaJetがデモフライトした。23.今年もポブルヘッドがやってきた。V.ボッタス選手のポブルヘッドが早くも勝利宣言のサムズアップ!? 24.台風19号の影響で予定は変更となり、土曜は鈴鹿サーキットが終日閉園となってしまふ事態に。25.代わって日曜日は晴天に恵まれ、たくさんの方々がサーキットに足を運んだ。26.GPスクエアのJAFブースではモータースポーツカレンダーを販売。卓上タイプは好評につき完売したほどだ。27.F1ドライバー気分が鈴鹿サーキットを走行できる、カーシミュレーターがJAFブース内に設置された。